

▼【取り組み紹介】寄付による資金確保

活動の継続には資金が必要！

団体運営に必要な資金は「会費・寄付」「事業収入」「補助・助成」などがあります。特に「会費・寄付」は使途の自由度が高く、安定的な収入として見込めるため重要です。社会課題の解決を目指し多くの人の共感を得ながら活動する NPO やボランティアの特徴にもつながります。

今回は、資金の 9 割が寄付金で構成されている、NPO 法人チェルノブイリ医療支援ネットワ

ーク理事長の寺嶋可南子さん(写真左)と理事の川原秀之さん(写真右)にお話を伺いました。



【事例】NPO 法人チェルノブイリ医療支援ネットワークの取り組み 寄付者の想いを活動につなげる

チェルノブイリ医療支援ネットワークの寄付者の多くは、女性や子どもがいる人です。チェルノブイリ原発事故後に急増した甲状腺ガンが、事故当時幼かった子どもたちに特に多く発症したことと関係しています。つまり、団体の支援対象や活動内容に共感する人・関心をもつ人が、応援者になっているのです。

そのため、定期的に発行している通信では、団体が伝えたいことだけでなく、寄付者が求めている情報を掲載しています。例えば、現地の状況や、原発・甲状腺ガンの情報、被災者の手記などを入れ、読みやすさに配慮しながら構成しています。

また、より多くの人に応援してもらえるよう工夫もしています。寄付金の使途を明確にすることで、寄付者自身が応援したい活動を選択できま

す。さらに、現地の商品を買うことでその一部が寄付になる方法や、古本による寄付など、多様な寄付方法を準備しています。

寄付は、直接活動はできなくても、団体を通じてよりよい社会を実現したいという想いの表れです。寄付者の想いを、寄付者が希望するかたちで、活動につなげることが重要なのです。

長く応援してもらおうポイント

手紙・電話・メールなどを活用し、寄付者が団体にとって大切な存在であることを伝えるようにしています。寄付者がなぜ寄付をするのか、団体にとってどんな存在かを考え、伝えることで、長く応援するかけがえのない仲間となっていきます。



▲ベラルーシでの甲状腺がん検診の様子。



▲お金以外の寄付方法も多様です。

【団体紹介】NPO 法人チェルノブイリ医療支援ネットワーク

チェルノブイリ原発事故は、1986年に発生しました。その被災地(主に隣国のベラルーシ)に対し、甲状腺ガンの早期発見と治療を主

とした医療支援を行うほか、現地の医療技術向上や、現地福祉作業所への支援にも取り組んでいます。(http://www.cher9.org/)

▼団体活動情報

《志免町子育てネットワーク》

志免町子育てネットワーク(以下 NT)は2019年6月7日(金)に解散総会を行い、19年間の活動を終わりました。団体が解散を決断するまでに、どのような合意形成を行ったかを伺いました。



▲意見をお互いに出し合える環境を整えて、会議で決めるべきことを確認することが大事です。

NTは、町内の子育てサークルや支援グループなどが集まり、2000年に発足しました。志免町の子育て世帯に必要な勉強会や講座と一緒に考え企画・実行していました。なによりも、子育て世帯がゆるやかにつながりを持ち、志免町の子育て環境を良くしていきたいという想いで活動してきました。

19年間で子育て環境に変化

町内の0~14歳の人口推計値は、平成22年以降、横ばいです。(子ども未来プランより)

しかし、町内の NT 参加団体やサークル参加者、NT 主催講座の参加者は、この1~2年で急激に減少しています。発足時に比べて、子育て支援センター設立といった環境の充足や、職場復帰が早まるなどの社会環境の変化が一因として考えられます。

◎大事な決断ほどメンバー同士で向き合うこと

支援室では会議の役割の中で、結論が出るまでの進行補助を行いました。発端は、「団体内で代表自身が退く話をする場合、自分で意見を言い、進行するのは難しい。」という相談からでした。山崎さんは NT が解散しても、自身が所属するもう一つの団体である「志免



▲解散総会では、OBも集まり、活動を振り返るスライド上映の後、相戸先生による講演会を行いました。

このままでは NT の会議や活動の参加自体が、人材不足により実施できない懸念があり、活動を続けられるのか今のうちに考える必要があったのです。

16年間代表を務めた山崎さんから、「私が代表を退いた場合、新しく代表をやりたい人はいますか。いないなら解散も考えましょう。」と、会議で投げかけがありました。さらに NT としてやることや、今の事業内容なども皆で再確認しました。

すると、代表の作業量や長年の活動により増えた持ち物の保管など、同じ人が長く代表を担った結果、その人しか担えない現状だとわかりました。解散する不安や、団体をなくす判断が難しいという意見もありましたが、代表を引き継ぐ人がいないので存続できないと皆で判断し、解散という結論に至りました。

子育て支援コミュニティおおきな木」で、子育て支援活動ができると考えました。また所属団体同士も、連絡し合える関係性を継続することになりました。メンバーが去ってからは、大事な決断はできません。活動中に、今後について話し合う大切さを認識しました。